

地域支援の臨床実践と実務教育を架橋した新たな「実践型教育プログラム」の開発：平成22年度報告書

著者	土岐 篤史, 上原 美穂, 川口 智美
ファイル(説明)	[奥付] 資料集 おわりに 第4章 第3章 第2章 第1章 はじめに 巻頭言 目次 [表紙・標題紙]
URL	http://hdl.handle.net/10232/17377

巻頭言

鹿児島大学 学長 吉田 浩己

鹿児島大学は、「鹿児島大学憲章」に基づき、我が国の変革と近代化の過程で活躍した先人の意志を受け継ぎ、自ら困難な課題に果敢に挑戦する「進取の精神」を有する人材を育成し、地域とともに社会の発展に貢献する知の拠点として、『進取の気風にあふれる総合大学』をめざすことを基本的目標として掲げています。

また、地域社会を担う高度専門職業人や研究者等の育成をめざした大学院教育の質の向上を図ることを鹿児島大学の第2期中期目標に設定しています。

このたび、臨床心理学研究科では、平成22年度～24年度に渡って、臨床実践と実務教育を架橋した「実践型教育プログラム」の開発に取り組み、地域の皆様の心の健康に貢献することを目指すことになりました。

臨床心理学研究科は、これまでに、心理臨床相談室を付設し、発達障害児・者をはじめとして年間1,000人を越える来談者に対して心理的支援を行うことによって地域に貢献してきました。また、教員及び学生は地域のニーズに応えるために、地域の専門家や地方公共団体などと連携を試み、様々な心理的困難を抱えた人々の援助活動を行ってきています。

本取組は臨床心理士としての高い専門性と実践的能力の育成を目的としておりますが、臨床心理学研究科は、すでに平成20年、21年度に専門職大学院GP「臨床心理実習における客観的評価方法の構築」に取り組み、高度な専門職業人養成に成果を挙げています。

鹿児島大学が、全国164校の臨床心理士養成大学院のリーディングユニバーシティとして、新しい時代の要請に応えて「実践型教育プログラム」の開発に取り組むことは、誠に喜ばしいかぎりです。本プロジェクトが、臨床心理士養成大学院におけるわが国の地域支援のスタンダードモデルになるとともに、地域の皆様の心の健康に貢献することを願ってやみません。